

私立 千葉商科大学附属高等学校 シラバス

地理歴史科「日本史研究（3年普通科特進選抜文コース）」	単位数	6単位	学科	普通科
	学年	3	組	G

1 学習の目標、評価の観点、内容及び評価方法

学習の目標	<p>①歴史的イベントがなぜ発生したのか、それによってどんな影響があったのかなどと考えることによって、物事を経過を追いながらとらえ、論理的に思考できるようにします。</p> <p>②「未来への手がかり」が「過去に学ぶ」ことによって得られることを理解します。</p> <p>③どのようにして歴史を勉強していけばよいのか（「歴史の学習法」）を身につけます。</p> <p>④歴史に関する知識を増やすとともに、これらが各自の進路目標決定の一助となるようにします。</p> <p>⑤我が国の伝統文化に対する関心を高めます。</p> <p>⑥今日我が国が抱える問題がどのような歴史的事象に起因しているのかを理解させ、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養います。</p> <p>⑦大学入試の準備を開始し、学んだ範囲の内では入試問題もこなせるようにします。</p> <p>⑧社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、公民としての資質・能力を育成することを目指します。</p>
-------	---

育成する資質能力	「思考力」「判断力」
学校ルーブリック項目	「向上心」「自律」「自己肯定感」「友愛」「創造性」「社会貢献」 「思考力」「判断力」「表現力」「人間関係力」

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・ワーク ・振り返りシート	・ワーク ・振り返りシート ・授業中の行動観察
配分	70%	20%	10%

2 学習計画・使用教材

学期	学習内容	学習のねらい	備考（特記事項、他教科との関連など）

<p>第 1 学 期</p>	<p>第 11 章 近世から近代へ</p> <p>1 開国と幕末の動乱</p> <p>2 幕府の滅亡と新政府の発足</p> <p>第 12 章 近代国家の成立</p> <p>1 明治維新と富国強兵</p> <p>2 立憲国家の成立</p> <p>第 13 章 近代国家の展開</p> <p>1 日清・日露戦争と国際関係</p> <p>2 第一次世界大戦と日本</p> <p>3 ワシントン体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解します。 ・ 近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察します。 ・ 化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察します。 ・ 都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解します。 ・ 国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察します。 ・ 江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解します。 ・ 明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解します。 ・ 欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する土族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解します。 ・ 明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察します。 ・ 政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察します。 ・ 大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解します。 ・ 東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解します。 	<p>①中間考査</p> <p>②期末考査</p>
----------------	--	---	---------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察します。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解します。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察します。 ・ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解します。 ・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察します。 	
<p style="text-align: center;">第 2 学 期</p>	<p>第 14 章 近代の産業と生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 <p>第 15 章 恐慌と第二次世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 <p>第 16 章 占領下の日本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 <p>第 17 章 高度成長の時代</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 55 年体制 2 経済復興から高度経済成長へ <p>第 18 章 激動する世界と日本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容 <p>入試問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解します。 ・近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察します。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察します。 ・義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解します。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察します。 ・大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解します。 	<p>③中間考査</p> <p>④期末考査</p>

・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解します。

・社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察します。

・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解します。

・恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察します。

・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察します。

・第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識します。

・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにとみなう諸改革について、その経過と内容を理解します。

・戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察します。

・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考えます。

・連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察します。

・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解します。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察します。 ・ 朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察します。 ・ 消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解します。 ・ ドル=ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解します。 ・ 高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察します。 ・ 冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえます。 ・ 科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識します。 	
第3学期	なし	なし	なし

使用教科書	山川出版社『詳説日本史（日本史探究）』
副教材	第一学習社『最新日本史図表』 啓隆社『日本史重要語句 CheckList』 山川出版社『日本史総合テスト』 山川出版社『日本史用語集改訂版』 山川出版社『授業用詳説日本史改訂版整理ノート』

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<p>①歴史の学習は興味を持つことから始まります。興味を持つためにも教科書や副教材にはこまめに触れておきましょう。</p> <p>②興味を持ったら、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」「なぜ」</p>
---------------------	---

	<p>「その結果」と考えを進め、論理的に考えましょう。</p> <p>③知識の積み重ねなくして思考することはできません。「歴史用語」等覚えるべきことは一つでも多く覚えましょう。</p> <p>④授業の復習は必ずしましょう。</p> <p>⑤日本史の学力を向上させるためには「史料を読みこなす力」が必要です。そのためには「古文」の学習にも力を入れましょう。</p> <p>⑥わからないことは、積極的に質問しましょう。わからないままにしないことが、学力向上の秘訣です。</p>
<p>授業を受けるに当たって守ってほしい事項</p>	<p>①授業形態は教科書・副教材を参考に、板書による講義形式が中心です。授業中、ノートは必ずとりましょう。</p> <p>②授業には必ず副教材を持参しましょう。</p> <p>③質疑応答を多用し考える時間を多く取るように展開するので一緒に考え、思ったことは積極的に発言しましょう。考えた上で講義を聞くと、理解力が飛躍的に向上します。</p> <p>④歴史の学力向上には家庭での復習が不可欠です。帰宅後、必ずワークブック等でその日に学んだことについて確認をしてきましょう。</p>
<p>その他のアドバイス</p>	<p>①昔の出来事や人物に興味を持っている人は多いはずですが、その興味を大切にしてください。</p> <p>②歴史の勉強は過去の人物・出来事をいたずらに暗記することではありません。昔の人が何を考えながら生きていたのかをよく味わってください。そのためには教室で行われる授業だけにとどまらず、図書館・博物館や遺跡・史跡等を訪れ積極的に歴史に触れてください。</p> <p>③現在世界でおこっている諸事象のほとんどが、その原因・理由が授業で学ぶ内容に関連しています。従って、臨機応変に教科書に沿った進行から多少離れることもあります。また、テレビ・ラジオ・新聞のニュースには常に触れ、関心を持ってください。</p> <p>④史料（資料）集を用いることにより、史料（資料）の活用法を学んでください。</p> <p>⑤大学受験を見据えたコースであることをしっかりと自覚してください。しかし、上記をしっかりと理解して勉強に臨めば、楽しく受験勉強をすることができるので頑張ってください。</p>